

なかとんべつ 町議会だより

Volume

212

令和2年11月10日発行



町民駅伝大会（9月6日）、敏音知コミュニティーセンター前スタート直後の様子

第3回定例会議決された議案等	3
第3回臨時会、第4回臨時会結果	4
私たちの一般質問	5
議員だより	8
平成31年度決算審査特別委員会	9
議会の動き・編集後記	12



第3回 定例会

令和2年第3回定例会が、9月15日から17日まで3日間の日程で開催され、初日の行政報告で小林町長は、次の3点について報告をしました。

1. 中頓別町国民健康保険病院の院長の交代について、川埜芳照院長（令和2年12月1日退職）から長島弘院長（令和2年12月2日着任）に決まりました。
2. 中頓別町防災行政無線の配付状況について、8月下旬の配付状況は750戸中738戸、98.4%の配付率となりました。未配付の方々には今後も協力が得られるように働きかけを行ってまいります。
3. 新型コロナウイルス感染症対策について、本町においては、国が進める緊急経済対策に加え、町独自の支援策として地域に根ざしたきめ細かな支援に全力で取り組んでいるところです。今後の対策として、日常生活はもとより、非常時に備えた感染拡大防止対策のさらなる拡充と併せて、「ウィズコロナ」のもとで誰一人取り残されることなく安定した生活を営めるよう、きめ細やかな支援策を講じるなど、迅速かつ的確に取り組んでまいります。

初日の報告で「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（財政健全化法）に基づく健全化判断比率では、本町は平成31年度決算で実質公債費率が▲1.4%（健全化判断基準25.0%）となり、着実に財政健全化が進んでいます。また、資金不足比率等の報告では、いずれの会計も資金不足が生じておらず、資金不足比率は算定されないと報告がありました。

一般質問では、通告順に4議員が、本町が抱える諸問題について、町長に所見を質しました。

平成31年度一般会計ほか7会計の決算は、全議員で構成する「決算審査特別委員会」（長谷川委員長）に付託され、会期中に審査を行いすべて認定されました。日程の最後には、「軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書」、「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書」、「国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書」を発議し、全会一致で可決されました。

第3回定例会で 決まりました



議決された議案等

○同意第9号 教育委員会委員の任命同意

9月30日に任期満了を迎える教育委員の人事案について、石井英正氏の再任に全会一致で同意しました。

任期 令和2年10月1日

令和6年9月30日

○議案第48号 職員給与条例（一部改正）

勤務1時間当たりの給与額の算出に当たり、11月から翌年3月までの月において給料月額に寒冷地手当を加算する改正を行うもの。

○議案第49号 税条例（一部改正）

地方税法改正に伴い、住民税及びたばこ税を改正するもの。

○議案第50号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

規約の変更

○議案第51号 北海道市町村総合事務組合規約の変更

規約の変更

○議案第52号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

規約の変更

議案第50号から第52号は、構成団体の解散に伴う脱退による変更。

○議案第53号 工事請負変更契約の締結

下水道管理センター監視制御設備更新工事の契約金額の変更に伴い契約を締結するもの。

○議案第54号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ1億7百90万5千円を追加し、歳入歳出の総額は41億4千631万1千円に。

歳出の主なものは、新型コロナウイルス感染症対応（地方創生臨時交付金）として防災対策や地域内農産物等の活用拡大などに4千137万円、社会保障・税番号制度システム整備費委託料798万円（総務費）商工業振興支援事業補助金1千万円（商工費）除排雪事業2千632万円、住宅建設促進助成金480万円（土木費）などを追加するもの。

○議案第55号 自動車学校事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ157万円を追加し、歳入歳出の総額は4千78万1千5百円に。車両修繕費85万円、施設のLED化工事71万円を追加するもの。

○議案第56号 国民健康保険事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ6万円を追加し、歳入歳出の総額は2億4千106万1千円に。社会保障・税番号制度システム

改修委託料に同額を追加するもの。

○議案第57号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ1千145万円を追加し、総額は5億9千190万1千円に。

新型コロナウイルス発熱外来施設改修工事277万円、常勤医師紹介業務委託料868万円を追加するもの。資本的収支では、収入支出既決予定額にそれぞれ276万円を追加。簡易入院施設備品に同額を追加するもの。

○議案第58号 水道事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ240万円を追加し、歳入歳出の総額は1億3千71万1千円に。簡易水道事業法適用基本方針策定委託料140万円などを追加するもの。

○議案第59号 下水道事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ163万円を追加し、歳入歳出の総額は2億7千155万1千円に。特定環境保全公共下水道事業法適用基本方針策定委託料140万円などを追加するもの。

○議案第60号 介護保険事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ446万円を追加し、歳入歳出の総額は2億2千

710万円に。国及び道に対する返還金に同額を追加するもの。

以下は報告案件

○報告第3号 平成31年度健全化判断比率の報告

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（財政健全化法）の規定により、監査委員の意見を付して議会に報告するとともに住民に公表されるものです。

①実質赤字比率 算定なし

（基準15%）

②連結実質赤字比率 算定なし

（基準20%）

③実質公債費比率 ▲1・4%

（基準25%）

④将来負担比率 算定なし

（基準350%）

【監査委員の審査意見】

実質公債費比率は平成22年度から早期健全化基準を下回っているが、今後とも公債費比率の通減に努め、財政の健全化を図られたい。

○報告第4号 平成31年度資金不足比率の報告

審査の対象となった病院、水道、下水道会計の資金不足比率（基準20%）は、いずれも算定されない。

第3回臨時会結果

（7月13日）

令和2年第3回臨時会が7月13日招集され、8議案を原案可決しました。

○議案第39号 特別職の職員の給与等に関する条例（一部改正）

新型コロナウイルス感染防止のための財源として活用するため、特別職の職員の給与を減額するもの。

令和2年8月分の給料月額について10万円を減額。

○議案第40号 国民健康保険税条例（一部改正）

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合など、国民健康保険税の全額又は一部の減免を行う必要があることから、既定の整備を行うもの。

○議案第41号 介護保険条例（一部改正）

低所得者に係る介護保険料の軽減措置について、令和元年10月からの消費税率の引き上げに伴い、保険料の軽減を図る。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により一定程度収入が減少した被保険者に対し、遡及して保険料の減免を行う必要があること

とから、既定の整備を行うもの。

○議案第42号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ1億9千7百44万3千円を追加し、歳入歳出の総額は40億1千534万3千円に。

主に高速ネットワーク通信環境整備推進事業に1億5千6百万円、新型コロナウイルス感染症対応交付金事業に3千万円を追加。

○議案第43号 国民健康保険病院事業会計補正予算

資本的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ783万4千円を追加。

新型コロナウイルス感染症緊急支援交付金を活用し、緊急時に必要な備品（人工呼吸器など）を整備するため同額を追加。

○議案第44号 物品売買契約の締結

除雪ドーザ購入にかかる契約の締結

○議案第45号 工事請負契約の締結

下水道管理センター監視制御設備更新工事にかかる契約の締結

○議案第4号 議会の議員報酬額及び費用弁償並びにその支給に関する条例（一部改正）

新型コロナウイルス感染防止対策の財源として活用するため、令

和2年8月分から12月分（5ヶ月間）の議員報酬月額をそれぞれ10%削減するもの。

第4回臨時会結果

（8月7日）

令和2年第4回臨時会が8月7日招集され、2議案を原案可決しました。

○議案第46号 一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ2千306万2千円を追加し、歳入歳出の総額は40億3千840万5千円に。主に新型コロナウイルス感染症対応交付金事業に1千8百万円を追加。

○議案第47号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ489万3千円を追加し、総額は5億8千45万円に。施設修繕に同額を追加するもの。資本的収支では、収入支出既決予定額にそれぞれ371万3千円を追加。

新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金を活用し、備品整備に同額を追加するもの。

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

中頓別町をPRする誘導板（観光看板）について

町は、観光客の一層の増加を図るため様々な方法で大変な努力をされています。そんな中で気になるのが、国道40号音威子府村と国道238号浜頓別町等5ヶ所に設置されている中頓別町をPRする誘導板（観光看板）です。雑草や木が生い茂り、色もあせ、本体そのものも傷んでいるなど、補修・更新が必要な看板がいくつかあります。観光客がこれらの看板を見て「なんだこれは」と思われたいためにも、また今後の観光客増を目指すためにも早急に手を加えるべきではないかと思いますが町長の考え方を伺います。

答 弁 ○小林町長

ご指摘のあった案内看板については平成7年に設置してから25年を経過し、特に看板上部の劣化が進んでおります。

また、音威子府村に設置している看板については、立地的な問題もあり周囲の木が生い茂ってきたことにより国道から見にくい状況にありますので、今後、設置の見直しも含めて補修等の対応を進めていきます。



音威子府村咲来にある観光看板（写真左）



拡大写真

質問

重すぎませんか。小中学校の通学カバンについて

時代背景が影響し、脱ゆとり教育以来、教科書が大きく厚くなり補助教材が増えるなど、小中学生の通学カバンの中身や持ち物は重くなる一方で子どもの体にリスクを与えている。そこで、小中学生のランドセルや荷物の重さが、成長段階の子どもの体を与える影響について、教育委員会としてどのように認識されているのか。また、少しでも軽量化することが必要だと感じますが、教育委員会として統一的な方針を示しているのか、教育長に伺います。

答 弁 ○田邊教育長

教科書やその他教材等は、宿題や予習・復習などの家庭での学習課題を適切に課す等、家庭学習も視野に入れた指導を行う上で重要なものであり、持ち帰ることが原則です。学習用具やその他教材等は、教室に置くことも可能です。ランドセルや荷物の重さが、本町の成長段階の子どもたちに大きな影響を与えているとは認識していません。また、教育委員会は、学校に教科書やその他教材等の荷物を学校に置いておく、「置き勉」や「ランドセル等の是非」について、統一的な指針は示していません。

東海林 繁幸 議員



質問

なかとんべつ観光まちづくりビューローのあり方について

期待され設立された組織ですが、管理運営に関し課題がみられ次について伺います。

①町の観光資源を統括し、管理運営や今後のあり方を見つけ、その実現のための計画策定を含め町の観光を促進する組織と考えるが実態は伴わなく感じているが。

②組織が少数（3名）の理事で構成されている。これに関係する機関（例えば産業団体、金融機関、自治会等）から広く参加を求めるべきではないですか。

③職員体制がこれまでの課題であつ

た。現在の体制に不備はないですか。

④町の観光資源を網羅し、点を面とする総合的な観光振興を意図しながら、鍾乳洞を除外し、さらには寿公園、スキー場も範中になく、これではいいのですか。

⑤観光振興計画にこの組織はどう係わっていますか。

答 弁 ○小林町長

①この組織は観光関連施設の管理運営の受託とともに、観光まちづくりを掲げてスタートした。現状は低迷している観光関連施設の運営状況や人材不足に課題がある。本来の活動に至っていない。今後、事業運営の強化を計り観光マネジメントに取り組む。

②構成の見直しを検討し体制強化を計る。

③職員体制に課題があり、募集をしているが人材の確保が困難である。協力隊員制度も活用し、本部構成を強化したい。必要な人材確保に努める。（専務理事等）

④町内観光資源の活用について、組織の活動方針は、地域観光資源を積極的に活用し事業化、商品化を図るほか、現在直接的に管理運営をしていない施設（鍾乳洞等）についても施設活性化に取り組み所管範中に加えることも検討する。

⑤観光まちづくりを推進する組織と

して、観光資源を活用した滞在プログラムや、特産品の開発、交流人口や移住者の増加、地域の雇用者の増加、人口減少対策にも寄与したく、町の観光政策との係わりは深く協力する。



観光資源の鍾乳洞周辺

高橋 憲一 議員



質問

「哺育育成センター」の運営方針について

「哺育育成センター」について、ど

のような運営が行われるのか酪農家の中から戸惑いや不安の声が聞かれます。哺育育成センター設置にあたって、酪農家の利用の方法や希望の取りまとめがどのような方法で行われたのか。また、規模や運営方法についての決定はどのように行われたのか伺います。

答 弁 ○小林町長

平成29年度に哺育育成牛預託施設の整備について、草地整備希望量の調査と合わせて、農業者へのアンケート調査を実施した結果、預託施設へ預託を希望する農家が三分の一程度あることから、道営草地畜産基盤整備事業での整備の具体的な検討を始め、振興局や農協と協議する中で、アンケートによる預託希望頭数及び哺育育成施設への飼料供給可能な農地面積等を勘案した結果、現在進めている年間144頭（総預託頭数276頭）規模での事業計画となりました。

施設の整備は、本年度から令和5年度までに整備していく予定であり、利用希望者の意向を踏まえながら適時説明会等を開催していきたいと考えております。

施設運営にあたっては、地域酪農の振興には欠かせない施設との考え方から、公共牧場と同様に町として物心両面で支援は必要と考えております。

宮崎 泰宗 議員



質問

新型コロナウイルスの影響について

新型コロナウイルスの国内感染状況において再度道内でも増加傾向にあることなどから、中頓別町としての対応や町内での影響等について改めて伺う。

町内行政施設での感染防止対策や行政主催の行事等に関して、消毒液などの設置状況や行事の開催内容に疑問を感じる声も多いようであるが、行事等の開催基準や対策の継続についてはどのように判断されているのか。

また、町内の経済対策としては、国からの給付金、道と町からの支援金、商品券の発行なども行われているが、給付や消費の状況についてはいかがか。

どうみん割りやGOTOキャンペーンなども行われているが、町内施設の観光的な利用への影響についてはどうか。

光回線の整備拡大もコロナ禍の影響により全国的に急がれる状況となっているが、本町における早期実現の可能性、今後の日程や見通し等についても伺う。

答 弁 ○小林町長

町では、7月9日付けで「新型コロナウイルス感染症におけるイベント、行事等に関する取扱い基準」を定め、町主催の会議、イベントや行事等を開催する場合は、適切な感染防止対策を講じた上で「新北海道スタイル」を実践し、開催することとした。9月4日からは5段階の警戒ステージを設けたが現在は最も制限の少ない第1段階に当たる対応となっている。

9月4日時点までの経済対策として、町からの支援金及び商品券発行事業等の状況については、休業協力・感染リスク低減支援金の給付が56件で650万円、まごころ商品券の発行が約2,830万円分（販売予定の56.62%）、牛乳・乳製品購入権の利用実績が約36万円（21.36%）となっているほか、つなぎ融資制度の利用が3件となっている。

鍾乳洞やコテージなど、町内観光施設の利用状況はコロナ禍の影響などから大きく落ち込んだが、6月以降は徐々に回復し始め、8月には例年並み以上に利用される施設もあった。道民割りにについては、町内で登録となっている宿泊施設として、現時点ではピンネシリ温泉で5名、コテージの宿泊で39名、スマートモデューロの宿泊で14名の利用となっている。

全町的な光回線の整備に向けては、現在、事業の実施主体となる通信事業者を通じて国へ申請書類を提出している段階にあり、交付決定され次第、工事に着手していくことになる。



令和2年11月30日が有効期限となっている「まごころ商品券」

支援金及び商品券発行事業の詳細

(1)休業協力・感染リスク低減支援金の給付状況

①北海道知事が休止を要請する施設を営む事業主	2件	200,000円
②酒類の提供がある飲食店で19時以降の酒類の提供を取りやめた事業者	7件	1,400,000円
③酒類の提供がない飲食店で営業の停止、営業時間の短縮など感染症防止対策を実施した事業者	1件	300,000円
④飲食店以外で減収が認められる又は感染症防止対策を実施した商工業者	46件	4,600,000円

(2)まごころ商品券発行状況（令和2年9月4日時点）

・購入者数	973人
・販売数	3,773セット（5,000円／1セット）
・発行額	28,297,500円
・販売状況	56.62%（販売予定数6,664セット）

議員だより く私の思いく

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

『ライドシェアの光と影』

二期目の任期も早一年半が経とうとしております。四半期ごとの定例会や臨時会を都度経験してもまだ慣れることはありません。

この町に生まれ、この町に育ちこの町で暮らしているものとして「ふるさと中頼別」の現状を議員という立場で目の当たりにする場を与えて頂いたこと、町民の皆様感謝するばかりでございます。

さて、地方が直面している人口減少、少子高齢化という課題が最も顕著に表れている我が町にとって現町長が提唱した、共助の仕組み作りの最たるものがライドシェアであり、実証実験が開始してから4年が経ちました。公共交通による移動が一段と不便になり公共交通空白地といっても過言ではない状況の中にあってボランティアドライバーが十数名もいることは、問題意識を共有している町民が大勢いることの象徴であり自分たちで移動を確保するという意思を感じます。コロナ禍による制約は未だ続いており利用者側からすると使い勝手がよいとはいえませんが、役場開庁時間内は、電話で依頼が出来ます。今では、その電話依頼が大多数であり、事前予約的なことも可能で約束した移動は確実に行えるような仕組みとなった反面、アプリ同士のマッチングシステムとしては、ほぼ機能していないということに



なっており、実際には窓口には誰か必ずいなければならない。提供も利用も出来ないということになっていきます。いわゆる町費による事務費と人件費がかかり続ける仕組みとなっていることを利用される方にも知っていただきたく掲載いたします。

スマホの操作が苦手な高齢者のための次の一手も行政は考えていて、テレビのチャンネルからライドシェアが使える仕組みも考案され、これが現実になれば運営経費も圧縮されることが見込まれます。

安心安全で、健やかに楽しく住み続けられる町を目指して微力ながら行政の監視や提案をしたいと思います。

(綴人 長谷川 克弘)

質疑・質問は要約されています

スペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。

議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、12月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

多くの町民のみなさまの傍聴をお待ち申しあげております。

平成31年度 決算審査特別委員会



町の各会計の決算は、地方自治法の規定に基づき、監査委員の意見を付して議会に提出され、認定の可否を決めるものです。

議会は予算が適正に執行されていることを審査するとともに、住民に代わって行政効果を検証します。

第3回定例会では、全議員で構成する「決算審査特別委員会」（長谷川克弘委員長）を設置され、休会中に各会計決算を審査し、平成31年度の一般会計をはじめとする8会計すべての歳入・歳出決算が認定されました。

決算審査のあらまし

一般会計はじめ、全会計の歳出総額（表1）で47億3千9百万円にのぼる平成31年度歳入・歳出決算の審査が終了しました。

一般会計の決算規模は、前年度に比べ、歳入で4億1千万円、歳出で3億9千7百万円減少しています。

地方交付税は、平成30年度の22億7千3百万円から2億3千4百万円減の20億3千9百万円となり、一般会計の歳入総額41億8千6百万円に占める割合（依存度）は約50%に達しています。交付税減少の主な要因は、基準財政収入額のうち法人税割を過大算定し、誤った数値を報告したことによるもので、昨年度に錯誤措置額として減少分が交付されたことによるものです。

実質公債費比率は前年度▲0・8%からさらに改善し、▲1・4%（表3②備考欄）まで引き下げられました。

しかし、比率の算定には不透明な部分が多い交付税が算入されるため、将来の不測の財政負担に備え、今後も行

実質公債費比率▲1・4%

基金残高17件、42億4千9百万円（一般会計）に

全会計決算を認定

財政改革を進め、本町の歳入に見合った比率を維持するよう、努力を続けなければなりません。

歳入では町税、使用料等の収入未済（滞納額）が、前年度に比べ1万9千円増加しており、不納欠損額（町税等が徴収不能と判断された金額）が25万円となっています。

一般会計の基金では、財政調整基金をはじめとする17基金の合計で、前年度末に比べ1億6千万円減少し、42億4千9百万円となりました。基金が減少した主な要因は、地域活性化基金8千万円、新規に森林環境譲与税基金5百万円が積み立てられたものの、公共施設整備等基金7千2百万円、未来を担うこどもの健全育成と教育の基金1千2百万円、地方創生基金1億5千3百万円を取り崩したことによるものです。

町全体の公債費の借入（元金）残高（表2）は、防災対策事業に2億6千9百万円、寿野外レクリエーション施設事業に7千2百万円を借り入れたことにより、平成31年度借入額が8億2

百万円となり、償還額が4億2千8百万円、この結果、前年度末に比べ3億7千4百万円増加し、56億7千5百万円になり、町民一人当たり約341万円の借金額は前年度と比較し約30万円増加しています。

特別会計への繰出金は、前年度に比べ7千万円増加し、5億5千万円になりました。自動車学校事業会計7百万円、下水道事業会計1千4百万円増加となったことが主な要因です。

特別会計の運営は、それぞれの収入によって支出を賄う独立採算が基本ですが、実態は一般会計からの繰入金によって収支のバランスを保っている大変厳しい状況であり、このことは今後も続くことが予想されます。

決算審査特別委員会では、9月16日から17日にかけて全議員による審査を行い、認定第1号一般会計から、認定第8号後期高齢者医療事業特別会計までの8会計の平成31年度歳入歳出決算について、全会一致で認定すべきものと決しました。

歳出総額 4 7 億 3 千 9 3 8 万円

(表-1) 平成31年度 一般会計及び特別会計の決算状況

(単位:円)

会 計 区 分	予 算 額	決 算 額			翌年度へ繰越すべき財源
		歳 入 額	歳 出 額	差 引 額	
一 般 会 計	4,207,257,000	4,186,046,853	4,008,649,439	177,397,414	301,000
特別会計・公営企業会計	自動車学校事業特会	43,793,000	42,441,300	42,228,165	213,135
	国民健康保険事業特会	207,571,000	217,170,743	194,352,149	22,818,594
	水道事業特会	103,290,000	102,155,498	101,668,988	486,510
	下水道事業特会	159,290,000	159,249,602	158,765,568	484,034
	介護保険事業特会	225,442,000	211,659,770	205,566,284	6,093,486
	後期高齢者事業特会	28,453,000	28,363,614	28,149,066	214,548
	国保病院事業 (収益的収支)	537,499,000	525,066,752	514,327,014	10,739,738
	(資本的収支)	69,687,000	58,238,000	69,305,922	▲ 11,067,922
合 計	5,582,282,000	5,530,392,132	5,323,012,595	207,379,537	301,000

(表-2) 公債(町債元金) 借入残高の状況

(単位:千円)

区 分	平成30年度末	借入(発行)額	償還額	平成31年度末
一 般 会 計	4,449,616	760,051	346,698	4,862,969
水 道 事 業 特 別 会 計	355,346		33,670	321,676
下 水 道 事 業 特 別 会 計	396,005	17,600	42,338	371,267
国民健康保険病院事業会計	99,499	24,700	5,416	118,783
合 計	5,300,466	802,351	428,122	5,674,695

(表-3) 財務指標(普通会計)

(単位:①～③%、⑤～⑦千円)

項 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	備 考
①経常収支比率	55.1	61.9	52.0	60.5	毎年経常的に収入される財源のうち、経常的に支出される経費の割合
②実質公債費比率 (単年度)	0.6	△ 1.6	△ 1.7	△ 1.1	財政健全化法による実質公債費比率は、この欄の平成29年度～31年度の3ヵ年平均で算出。平成31年度=▲1.4%
③実質公債費比率 (3ヵ年平均)	4.9	2.6	0.3	△ 1.4	公債費負担適正化計画の実質公債費比率は、②の平成28年度～30年度の3ヵ年平均で算出。平成30年度=▲0.8%
④財政力指数	0.093	0.137	0.142	0.146	財政力の強弱を表す指標で、1以上は普通交付税の不交付団体
⑤標準財政規模	2,340,874	2,318,316	2,328,660	2,103,512	ある程度均衡の取れた行政サービスを行うために必要な一般財源の規模
⑥基準財政収入額	212,576	475,837	214,254	217,532	収入が見込まれる税金など
⑦基準財政需要額	2,217,680	2,119,953	2,007,180	2,005,399	一定の行政サービスを提供するために必要な財源

決算審査特別委員会

主な質疑

一般会計

総務費

問 宮崎委員

前年度から整備されている防災無線について、戸別受信機の配付台数が849台、98%配付されている。残り2%の受け取っていただけない理由はどこにあるのか。

答 小林総務課長

ためらう理由は電気が結構掛かることを言われたが、年間電気料はそれほど掛からないと聞いています。今後におきましては再度お願いして、配付率100%を目指したい。

問 星川委員

企業誘致促進事業であります、貝化石の工場は企業誘致してから3年になりますが、製造はしているが販売まで至っていないと聞いています。行政に何か報告はあるのか。

答 小林町長

企業としては親会社もあって経営的には維持されている。ただ販売の実績は出ていない。現在は、新たな活用先において懸命に努力されていて、商品開発に向かって打ち合わせをしたり、肥料・飼料以外での活用も検討している状況です。

民生費

問 東海林委員

冬期生活支援事業60万円の決算額がゼロになっている。もし、思いやりがあるのなら非課税でなくても税金を払っている障がい者や高齢者にも助成できるようにならないか。

答 相馬保健福祉課長

課税世帯の方も対象となる方もいますので、制度をもう一度再構築するよう検討させていただきたいと思います。

農林水産業費

問 星川委員

6次産業化推進事業のブドウについて、試験栽培はしていますけど、その後の生育はどうなのか。また、今後どのようにしていくか。

答 平中産業課長

今年度のブドウの生育につきまして、昨年は非常に有効積算温度が高くて順調でしたが、今年はそれより低い状況ですが、おおむね順調に生育しています。今後は、試験栽培を続けながら将来的には醸造ができるような方向まで圃場を広げる考え方を目指していきたい。

商工費

問 高橋委員

観光振興計画フォローアップ事業のスタートアップ委託事業は宝島旅行社の関係だと考えていいですか。

答 永田産業課参事

そのとおりでございます。

問 高橋委員

運営についてまでは宝島旅行社が関わることはないかもしれませんが、専務理事がいらないこと運営上支障を来すことが考えられることについて、専門的知識も必要になってくるなどの相談はしているのでしょうか。

答 永田産業課参事

委託料の中で経営サポートの業務を含んでいますので、その都度経営に関する相談はしています。

問 高橋委員

今の状況からすると、アドバイスにしても運営にしても結果が出てないように思います。宝島旅行社の能力に係るのでしょうか。

答 永田産業課参事

ビュローが設立して1年数か月で、施設の老朽化やスタッフの人材不足など利活用に向けた運営面の改善に大きく労力を取られている。ビュローが担うべき観光によるまちづくりまでは至っていない。宝島旅行社については、得意分野もあり相談に乗ってもらいたいがらやっているとところです。

土木費

問 宮崎委員

松音知にある「もうもう」にある住宅について、長年にわたって中頓別町周辺で蜂蜜を採取されている養蜂業の方々が利用されていると思います。最近、住宅を出てほしいと町のほうから言われたと聞いたので、事実かどうか確認します。

町からは住宅を出てくださいと言ったことはないです。

答 十屋建設課長

問 宮崎委員

町の特産品の一つの蜂蜜の確保に関わってくださいますし、特に使う人がいなかったら活用していただいたほうがよろしいと思いますがいかがですか。

答 十屋建設課長

今ま入居されていた方が一度退去して、新たな方が入るときは募集をかけるのが決まりで、考慮しながら対応したいと思います。

歳入

問 東海林委員

公営住宅使用料の収入未済額8戸で152万円、相当大きな金額があるのか、全体にバランスよく未済額があるのか教えてください。

答 十屋建設課長

8件のうち金額に対して少ない額で1万7千円、多い額で40万円超える方もいます。

問 東海林委員

やっぱり多い人が一人二人納入してくれどと金額的に少なくなるので、この未済額の納入促進は具体的にはどう

しようとしているか。

答 土屋建設課長

可能な方は個別徴収し、状況を整理しながら計画的に徴収に当たっていきたいと考えている。

問 東海林委員

聞きたかったのは、中頓別町に住んでいて働いている人であれば働き先と協議して給料から差し引くことを今までみんなやってきている。居ないというのは行方不明なのか教えてください。

答 土屋建設課長

郵便等で請求を送っても行先不明で返って来る方もいますので、連絡が取れる方は支払い計画を検討して払っている状況ですが、給料から引くところまではやっておりません。

決算審査特別委員会 審査意見

事業効果の報告について

内部評価の結果を報告することを求める。

町民から集められた手作りマスク



議会の動き

7月

- 7日 議会広報編集特別委員会
- 13日 第3回臨時会

8月

- 7日 第4回臨時会
- 20日 楢原民之助氏追悼慰霊祭
交通事故死亡者慰霊祭
無縁故者法要

9月

- 1日 議会運営委員会
- 4日 議会運営委員会
- 15日～17日 第3回定例会、決算審査特別委員会
- 27日 武部代議士・吉田道議・三好道議を囲む会（稚内市）

10月

- 2日 議会運営委員会
- 8日 議会広報編集特別委員会
- 19日 議会広報編集特別委員会
- 28日 議会運営委員会

※行事等については、新型コロナウイルスの感染防止のため規模を縮小したことにより、来賓として出席出来なくなっています。

発行 中頓別町議会
編集 議会広報編集特別委員会
お問合せ 〒098-5595
北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
tel (01634) 6-2244 (直通)
fax (01634) 6-1155

編集後記

なかとんべつ議会だより212号を、お読みいただきありがとうございます。新型コロナウイルス対策で町民の皆様にとっても何かと不自由な生活を送られていることとお察し申し上げます。

「新しい生活様式」、「新北海道スタイル」などの言葉もテレビ等のメディアで聞かない日がないほどの注意喚起が未だ続いていて、この状況の終息が少しでも早く来てはくれないうばかりであります。

これから冬に向かう時期はいわゆる風邪やインフルエンザが流行り出すこともあり、手洗い、うがい、マスク着用などの対策が必然的に継続することとなりますが、衛生的にも社会的にも一段と新しい常識の時代がやってきたように思います。

経済対策の効果も地域経済にとつては実感するにはほど遠い状況にあり、景気が上向く兆しさえ見いだせてないと思うのは私だけではないと思います。しかしながら、下を向いてばかりいられません。

感染症対策に翻弄された一年間となつてしまいましたが、自然豊かな中頓別の美味しい空気を、マスクなしで胸一杯吸い込んで、前を向いて進んでいきましょう。

議会広報編集特別委員会(長)